

[]内の誤りを【 】内の通り訂正します

『保線工学（下）』正誤表

32 頁 表 8.7 平面性 列車速度 160km/h 以上の本線 [3] ⇒ 【 5 】

36 頁 上から 11 行目 [常におさめるためにに] ⇒ 【 常におさめるために 】

48 頁 式 (8.11)

$$\left[P \text{値} = \left[1 - \frac{1}{\left\{ 1 + \exp(-3) \left(\sigma \times \frac{\sqrt{3}}{\pi} \right) \right\}} + \frac{1}{\left\{ 1 + \exp(-3) \left(\sigma \times \frac{\sqrt{3}}{\pi} \right) \right\}} \right] \times 100 \right] \Rightarrow \left[P \text{値} = \left[1 - \frac{1}{\left\{ 1 + \exp(-3) \left(\sigma \times \frac{\sqrt{3}}{\pi} \right) \right\}} + \frac{1}{\left\{ 1 + \exp(3) \left(\sigma \times \frac{\sqrt{3}}{\pi} \right) \right\}} \right] \times 100 \right]$$

72 頁 図 9.20 2 か所 [高低用変機器] ⇒ 【 高低用変換器 】

78 頁 図 9.33 [2.1-16.4m 偏心矢] ⇒ 【 2.1-14.4m 偏心矢 】

82 頁 図 9.42 左図 を(a) 右図を(b) とする

83 頁 下から 8-9 行目 […その後方式 I, による…] ⇒ 【 …その後, 方式 I による… 】

86 頁 図 9.51 [九州新幹線用台車装架型慣性正矢軌道検測装]

⇒ 【 九州新幹線用台車装架型慣性正矢軌道検測装置 】

105 頁 図 9.90 [高低変位の算出] ⇒ 【 高低狂いの算出 】

127 頁 下から 11 行目 式 (10.3) 2 行目

[…-1/5 x(n)…] ⇒ 【 …+4/5 x(n)… 】

139 頁 上から 4 行目 式 (10.6)

— (a の上にバーをつける)

[… (a(t)/a_{ref}) …] ⇒ 【 … (a(t)/a_{ref}) … 】

150 頁 図 10.39 及び図 10.40

横軸のメモリ「0.1」を 1 列分左に寄せる (次頁の図 10.41(a)(b)参照)

153 頁 上から 8 行目 式 (10.27)

[x₁₀ (ξ) = …] ⇒ 【 y₁₀ (ξ) = … 】

153 頁 図 10.44 [軌道狂い y (ξ)] ⇒ 【 軌道狂い y₁₀ (ξ) 】

155 頁 上から 10 行目 [図 10.43] ⇒ 【 図 10.45 】

上から 11 行目 [ゲインもかなり小さい…]

⇒ 【 検測倍率もかなり小さい… 】

244 頁 下から 7 行目 [列車通過とともに除去に] ⇒ 【 列車通過とともに徐々に 】

262 頁 上から 1 行目 [(スペース 2 つ)より改善する] ⇒ 【(スペース削除)より改善する】

410 頁 図 18.4 中 [車上子 ⇄ 車上子] ⇒ 【 車上子 ⇄ 地上子 】